LLL260　EFL 学習者のための音声学・音韻論入門

3 年　1, 2 クォーター

担　当　教　員	ジャヌッツイ・チャールズ
授　業　形　態	講義，演習
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ	該当しない
単　位　数	２
曜 日 ・ 時 限	金曜日・１時限

授業概要

本コースでは、音声学と音韻論の基本的な概念や方法の概要を紹介します。授業では、英語と日本語の口語に関して、具体的な例やデータをとりあげます。本コースでは、音韻論の実用的な価値が大きく音声学に依拠していることを示します。これは、音声学と音韻論を英語学習に適用したい学習者に特に当てはまります。音声学と音韻論は、人間の言語と音声の産出、知覚、習得、そして記憶において発生する現象に言及する用語です。これらはまた、このような現象の形式的、理論的、学術的研究に言及するために使用されています。わかりやすい違いは次のようなものになります：「音声学」は制御された調音（産出）、音響伝達、聴覚認知の目立った特徴に言及します。「音韻論」が言語において主に焦点を当てているのは、サブレキシカルなレベルの処理に於ける、制御した音声による創造、表現、コミュニケーション、意味を理解するための心理社会的システムです。別の言い方をすると、「音韻論」は、私たちの音声能力（調音、リスニング力）の心理言語学的制御に関わると言えるかもしれません。本コースでは、EFL 学習者へ向けた、聴覚認知や発話産出の実用的な側面も取り上げます。心理言語学的に言えば、例えば日本人の英語、中国人の英語などの言語間の音韻論の現象を取り上げます。社会言語学的に言えば、国際的なコミュニケーションのためのリンガ・フランカ（共通語）としての英語の音韻要素が含まれます。最後に、文語英語はアルファベット式言語のため、英語リテラシーの音声と音韻の側面も、本コースでカバーされます。

到達目標

本コースの学生の到達目標：

(1) 調音、音響、および聴覚音声学を含む、音声学の基本的概念、原則、実践を学び、利用できるようになる。
(2) 音韻論の基本的概念、原則、実践を学び、利用できるようになる。これには、音声学に大きく依拠する音韻論へのアプローチが含まれます（例えば、調音音韻論）。
(3) 音声学と音韻論の要素を、英語と学習者の母語（例えば、日本語や中国語など）の対照分析に適用できるようになる。
(4) また、TOEIC、TOEFL、IELTS などの標準化された英語に見られる、口語英語や方言、アクセントなどのスピーキングやリスニングの際に、音声学と音韻論に対する理解を適用できるようになること。また、例えば、TOEIC のリスニングできちんと発音され、記述された言語は、より自発的な音声と比較できるようになる。
(5) 音声学と音韻論に対する理解を、アメリカ英語とイギリス英語、およびその他の標準英語（南アジアや東南アジアの英語を含む）の比較において利用することができるようになる。
(6) 音声学と音韻論に対する理解を、日本やアジア、そして世界中で、非ネイティブスピーカーもしくは EFL 学習者によって実際のコミュニケーションで使われている英語（つまり、共通語としての英語）に適用することができるようになる。

本コース修了後は学生は次のことができるようになる：
- 音声学と音韻論のより深い理解を、彼らの英語学習に役立てられる。
- 音声学と音韻論のより深い理解を、彼らの母語に適用できる。
- 彼らの発音を向上させるために英語を勉強できる（スピーキングおよびリスニングの両方において）。
- 世界中で、ネイティブや英語の流暢な人が話す英語に対して、より、ゆとりを持てるようになる。

- 音声学と音韻論の理解を、その後のコース、もしくは、独立した研究（例えば卒業論文）で役立てられる。

先修科目

LLL 210:言語学入門（または相応のコース）

教科書・参考資料等

(1) Skandera, P. および Burleigh, P. (2011 年) 『A Manual of English Phonetics and Phonology: Twelve Lessons with an Integrated Course in Phonetic Transcription』 テュービンゲン、ドイツ: Gunter Narr Verlag 社 （ペーパーバック完全版）
(2) International Phonetic Association (1999 年) 『Handbook of the International Phonetic Association: A Guide to the Use of the International Phonetic Alphabet』 ケンブリッジ: Cambridge University Press
(3) Rudder, J. (2010 年) 『The IPA for Language Learning: An Introduction to the International Phonetic Alphabet』 シアトル、ワシントン州: Amazon CreateSpace 社
(4) Yavas, M. (2016 年) 『Applied English Phonology』 ロンドン: Wiley-Blackwell 社
(5) 講師が提供する記事や書籍の一部のプリント、およびマルチメディア

注：上記のうちのどの書籍を入手する必要があるかは、最初の授業において、講師より発表されます。書籍の決定は、コース開催時の書籍の入手可能性に基づいて行われます。

授業の方法

授業は、短い講義、プレゼンテーション、ペアや小グループでのディスカッション、および発表によって構成されます。例えば、音声学や音韻論の特定のポイントについて説明を受けます。学生は、ペアか小グループで、母語やフィールドワーク、インターネットでのリサーチなどから、その他の例を見つけるよう指示されます。そして、その結果を授業で発表し、その結果はまた、分析され、議論されます。

成績評価

評価基準：
(1) 読本に書かれてあった内容についての感想レポート
(2) 授業でのディスカッションへの参加
(3) 言語学的ポイントを表現する例を見つける宿題と、授業での発表
(4) 音声学および音韻論的分析のための小規模の研究ツールを考え、実行すること（ペアまたは小グループにて）

成績

（全体を 100%とした場合の割合）
(1) 文献に対するレポート（20%）
(2) 小プレゼンテーションを含む授業への参加（30%）
(3) 最終グループプロジェクト、社会言語学的分析のための小規模リサーチツール（50%）

授業スケジュール

第１回:
音声学と音韻論の概要－基本原則、概念、方法、音声学と音韻論の違いおよび共通点
読本のプレビュー
プリント配
第２回:
概要の続き、前の週の読本についてのディスカッション
次週の読本のプレビュー
第３回:
調音点と調音方法、英語の子音
課題の教科書を使用した書き取り練習

前の週の読本についてのディスカッション
次週の読本のプレビュー

第４回:
子音についての続き、書き取り練習の宿題の答え合わせ
前の週の読本についてのディスカッション、次週の読本のプレビュー
書き取り練習の宿題割り当て
第５回:
子音についての続き、子音の異音的変種、子音の相補分布
異音の相補分布と音素の相補分布、子音連結
音素配列論／許容される子音の連続、書き取り練習の宿題の答え合わせ
前の週の読本についてのディスカッション、次週の読本のプレビュー
書き取り練習の宿題割り当て
第６回:
母音分析の伝統手法（唇の形、口の開き具合、口の中の舌の形や位置、鼻音化のような機能の存在など）
英語の母音の概要、書き取り練習の宿題の答え合わせ
前の週の読本についてのディスカッション、次週の読本のプレビュー
書き取り練習の宿題割り当て
第７回:
母音についての続き、母音の異音的変種
母音の弱化と省略、音節主音の、強勢の無い /r/, /l/, /n/
二重母音、三重母音、R 音性母音、母音（およびその他の有声音）のスペクトログラフィック分析とフォルマント分析
書き取り練習の宿題の答え合わせ、前の週の読本についてのディスカッション
次週の読本のプレビュー
書き取り練習の宿題割り当て
第８回:
特徴分析、音声的音節、音韻的音節、音節構造の音素配列論、母音調和
書き取り練習の宿題の答え合わせ、前の週の読本についてのディスカッション
次週の読本のプレビュー、書き取り練習の宿題割り当て
第９回:
同時調音、同化、リエゾン、連結、音脱落、英語の連声、および、速い連続発音のその他の側面
書き取り練習の宿題の答え合わせ、前の週の読本についてのディスカッション
次週の読本のプレビュー、書き取り練習の宿題割り当て
第１０回:
韻律論分析／超分節音素、
音節レベルおよび単語レベルでのアクセント、ピッチ、ストレス、卓立と強勢
イントネーションのパターン、発話タイミングとリズム（強勢に基づくもの、音節に基づくもの、モーラに基づくもの）、きちんと話された言葉（例えば、テキストの音読）と速い発話
書き取り練習の宿題の答え合わせ、前の週の読本についてのディスカッション
次週の読本のプレビュー、書き取り練習の宿題割り当て
第１１回:
発話産出と音声知覚の音韻的単位／サブレキシカル（下位表象）単位、音素
音、分節音、素性、音響特性と調音素性、音韻単位としてのモーラ
調音ジェスチャー、視覚的に目立った調音ジェスチャー
音声知覚、音声伝達、および調音要素としての不変性
振幅増大の無い音声信号圧縮（速い口語につながる）
書き取り練習の宿題の答え合わせ、前の週の読本についてのディスカッション
次週の読本のプレビュー、書き取りおよび音韻論的分析練習の宿題割り当て
第１２回:
音声学と音韻論のインターフェース復習

音韻論の、より完璧な音声および言語モデルへの統合
ライティングシステム、読み書き能力、読本などにおける、音声学と音韻論
書き取り練習の宿題の答え合わせ、前の週の読本についてのディスカッション
次週の読本のプレビュー、書き取りおよび音韻論的分析練習の宿題割り当て
第１３回:
音声学および音韻論的分析をしようした、英語と日本語（および中国語）の対照分析
言語間音韻論の誤差解析、学習において問題となる口語英語の負の転移／干渉と有標素性
グループプロジェクトの対照分析タスク
第１４回:
音声学および音韻論的分析をしようした、英語と日本語（および中国語）の対照分析
英語に対する、EFL 学習者の言語間音声学および音韻論的分析
グループプロジェクトの対照分析タスク
(第１３週の続き).
第15回 – 第１６回:
対照分析トピックに対する、学生によるグループ発表、対照分析トピックに対するレポートの提出
コースおよび学習における自己評価の提出

事前・事後学習

(1) ほぼ毎週、宿題があります。宿題は、読本と書き取り練習から成ります。宿題には、一週間あたり、約 2 時間を要します（一人で行うものもあれば、グループで行うものもあります）。読本と書き取り練習は、翌週のクラスの準備として必要なものです。
(2) ほぼ毎週、授業で書き取り練習の答え合わせをします。また、前の課題読本について議論します。
(3) ほぼ毎週の授業で、翌週のための書き取り練習と読本のレビューを行います。授業の間に書き取り練習を開始することで、学生がタスクをしっかりと理解できるようにします。また、講師は課題の読本について概略を説明し、学生が翌週の授業のためにしっかり理解できるようにします。
コースが進むにつれ、書き取り練習は音声学および音韻論的分析の問題に移行していきます。この問題も、書き取り能力を必要としますが、学生は、自分自身の音韻論的分析に挑戦していくこととなります。